

文部科学省の統計教育大学間連携ネットワーク主催のシンポジウム 『論より統計！ 統計教育の改善に向けた活動』 2月27日、午後2時から青山学院大学・本多記念国際会議場で開催



150名を超える参加者、笑いあり、難題ありで、順やかなシンポジウムとなりました



福井先生 三木学長 関根局長 岩村本部長 美添先生 西郷先生 宿久先生 舟岡先生 田中副学長



2月27日（土）午後2時から東京青山の一等地にある青山学院大学、第2代院長の本多庸一翁を記念した本多国際会議場に150名余りが参加して、大学間連携共同教育推進事業「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」統計教育大学間連携ネットワーク（略称：J I N S E）主催シンポジウム『論より統計！ 統計教育の改善に向けた活動』が開催されました。

統計教育大学間連携ネットワークは文部科学省大学改革推進等補助金事業で東京大学、大阪大学、総合研究大学院大学、青山学院大学、多摩大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学の8大学が連携し活動しています。

青山学院大学の三木学長による開会挨拶、日本銀行の関根調査統計局長と日本経済団体連合会の岩村経済政策本部長の来賓挨拶の後、早速第1部、美添委員長が活動報告、質保証の西郷委員長、カリキュラムの宿久委員長、舟岡外部評価委員長が評価報告を行いました。

第2部は成蹊大学の中西名誉教授の司会で、日本銀行の肥後参事役、統計家の西内氏、大学入試センター元副所長の田栗先生、大阪大学の狩野教授の4人が『これからの統計教育』をテーマにパネルディスカッションを行い、例のとおり予定時間を大幅に超過した午後5時半過ぎまで白熱、最後に青山学院大学の田中副学長の閉会挨拶で無事終了しました。

『論より統計！ 統計教育の改善に向けた活動』シンポジウム



《開会挨拶》の三木学長

青山学院大学の三木義一学長、このキャンパスは日本でも1、2を競う美しさを誇り、皆様を迎え、シンポジウムを開催できることは大変光栄と歓迎の挨拶をしました。



《来賓挨拶》の関根局長

日本銀行調査統計局の関根敏隆局長、日本銀行は日々膨大なデータを活用しており、J I N S Eの活動が今後のデータサイエンスに貢献することを期待したいと述べました。



《来賓挨拶》の岩村本部長

続いて日本経済団体連合会経済政策本部の岩村有広本部長もまたデータを駆使して経済動向を予測し、展開しており、J I N S Eの活動に期待を表明されました。

《活動報告》『統計教育大学間連携ネットワークの活動』発足時運営委員長・美添泰人先生



第1部《活動報告》最初に登壇したのはJ I N S E発足時の運営委員長の青山学院大学教授の美添泰人先生。

2012年9月発足、運営委員会や質保証委員会、カリキュラム策定委員会、外部評価委員会などの委員会をP D C Aサイクルを回しながら展開、青山学院大学での第1回シンポジウム以降、毎年10月に第2回は早稲田大学、第3回目2014年10月に東京大学、昨年10月には第4回目を総合研究大学院大学（統計数理研究所）で開催してきたことを報告しました。

2013年、西内啓先生の「統計学が最強の学問である」をキッカケに世の中にわかに“統計ブーム”、週刊ダイヤモンドや週刊エコノミストなどが“統計学”を特集したことも幸いし、統計への関心が一気に高まりました。

そうした中で教育界を見てみると米国や欧州諸国が積極的に取り組んでいる「統計的問題解決能力」の強化に対し、日本の大きな遅れが感じられることから「知識基盤社会」と言われる21世紀をリードするためにも“統計教育”の一層の強化・推進が不可欠と結びました。

『論より統計！ 統計教育の改善に向けた活動』シンポジウム

《活動報告》『統計教育に関する参照基準』質保証委員会 委員長・早稲田大学 西郷 浩 先生



質保証委員会では、各大学の人文科学や政治学、社会学、医学、生物学、工学など広い分野で実施、活用されている統計教育の中で、標準的な内容・水準の参照基準を示す必要があり、その実現に向け活動したことが報告されました。

《活動報告》『カリキュラム策定委員会活動』委員長・同志社大学 宿久 洋 先生



カリキュラム策定委員会では、質保証委員会で作成された参照基準に基づき、各分野のカリキュラムが策定されており、カリキュラムに対応した教材およびデータについても収集整理され、ホームページ上で公開されていることが報告されました。

《活動報告》『外部評価委員会 活動報告』委員長・日本統計協会 舟岡 史雄 先生

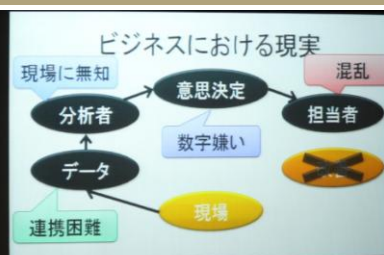


統計に密接に係わる企業や業界団体・組織からの委員で構成され、社会が求める人材像の提示と、それを達成するための統計教育のあり方の提示を目的に、第三者的な立場でJINSEが展開する事業活動を第三者評価することに取り組んだことが説明されました。

第2部 パネルディスカッション『これからの統計教育』

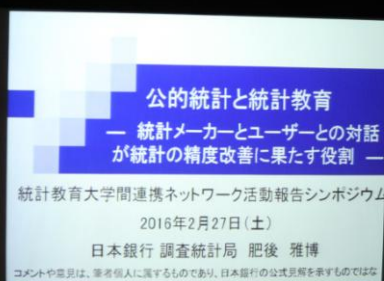


『企業がデータを活かすために』統計家 西内 啓 先生



“統計”ブームの火付け役、統計家の西内先生。現在、東京大学の政策ビジョン研究センターで研究活動をされる一方、品質管理にも造詣が深く、多くの企業の問題解決を支援、統計がビジネスの中で直面する諸問題を紹介しました。

『公的統計と統計教育』日本銀行 調査統計局 肥後 雅博 参事役



日々データと格闘されている日本銀行の肥後参事役は実務家としての経験を基に“統計”は様々な分野で使われているが、統計メーカーとしてはどのように作成すべきかと思案。統計データを加工する側と使用する側のコミュニケーションが不可欠と強調しました。

第2部パネルディスカッション『これからの統計教育』

『これからの統計教育の改善に向けて』大学入試センター元副所長 田栗 正章 先生



長年にわたり大学入試センターで活躍されてきた田栗先生、統計教育分野での専門家でもあり、どのように大学入試の中で統計を出題させるかは大きな課題と指摘、JINSEの今後の展開の中での奮起を期待されました。

『統計の分野で学生に絶対に教えておくべきことは何?』大阪大学 狩野 裕 先生



統計関連のシンポジウムでありながら、なかなか統計の専門的な内容にはほとんど無縁で進んできましたがようやく、狩野先生のところではさすがに統計教育の専門家、ここで難解な「標本分布論」の話が出て参りました。



成蹊大学名誉教授の中西寛子モデレーターもサジを投げた時間管理でしたが、パネラーの発表直後には会場からは早速手が挙がり、統計の専門家や企業関係者からの具体的な質問にパネルディスカッションは盛り上がりました。



第2部パネルディスカッション『これからの統計教育』総括



中西先生、今回もパネルに振り回されて大変お疲れ様でした。

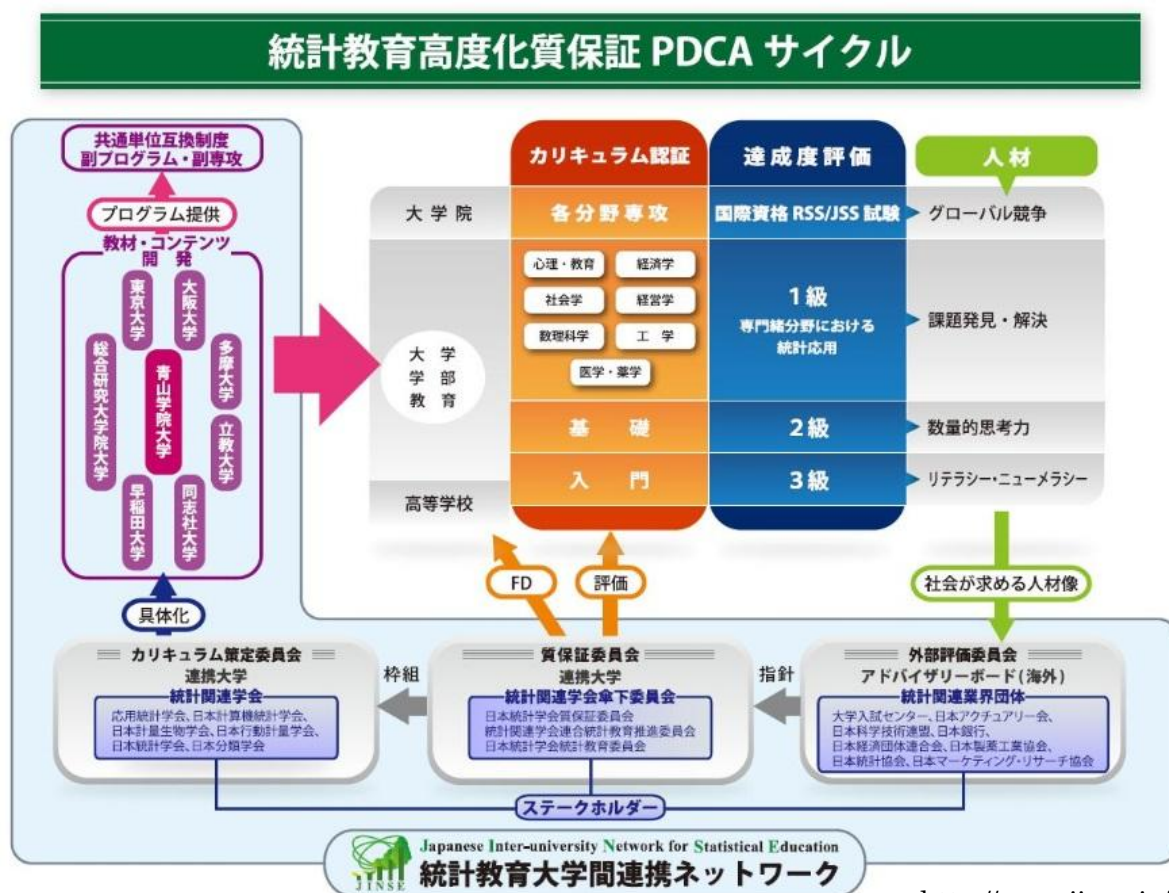
毎回パネルディスカッションの楽しみの一つは大阪大学の狩野先生の総括、前回は「おもてなし」、今回のお題は昨年話題の「トリプルスリー」と相成りました。

統計の重要性を的確に表現し、一億総活躍社会を目指す現政権に擦りよるつもり？かも知れませんが、例え政権が変わろうとも“統計”は永遠です。

皆さん頑張りましょう。



予定時間を大幅にオーバーし、午後5時半過ぎ、閉会の挨拶に立った青山学院大学の副学長、田中正郎先生、大いに楽しんだシンポジウムであったと総括され、閉会しました。



<http://www.jinse.jp/>

連携大学・機関

8大学

東京大学
大阪大学
総合研究大学院大学
青山学院大学（代表校）
多摩大学
立教大学
早稲田大学
同志社大学

6学会

応用統計学会
日本計算機統計学会
日本計量生物学会
日本行動計量学会
日本統計学会
日本分類学会

8団体

大学入試センター
日本アクチュアリー会
日本科学技術連盟
日本銀行
日本経済団体連合会
日本製薬工業協会
日本統計協会
日本マーケティング・リサーチ協会

これらの大学や関係学会・団体だけではなく、多くの学会を通じて、多くの大学等が連携を強化し、統計教育を強化すべく取り組んでいます。

コメント

私は日本品質管理学会のTQE特別委員会に参加していますが、会議の席上、米国政府労働省が作成した“SCAN Sレポート”が話題になり、慣れぬ英語の資料を読んでビックリ、欧米各国が四半世紀前に統計的品質管理を活用する日本に倣い小中高等学校教育で“統計教育”を強化した結果、ビッグデータ時代を切り拓いたことを知りました。

日本が“統計教育”の遅れを挽回するには膨大な大変なエネルギーと時間が必要と思いますが、ぜひ取組みに関心を持ち、支援して下さい。